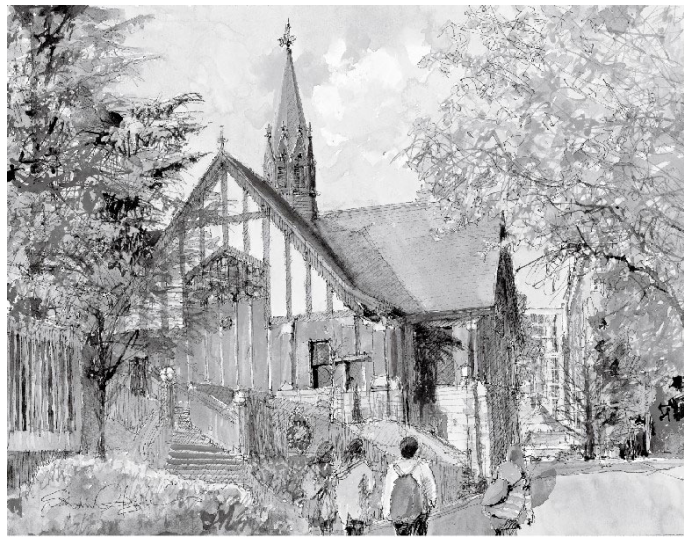


2026 年度（春学期）経済学部
ゼミナールガイドブック



COOL HEADS BUT WARM HEARTS
ALFRED MARSHALL

明治学院大学経済学部

渥美 利弘 ゼミナール

演習のテーマ

日本と世界の貿易

演習の内容

国際貿易を経済学の視点から学び、貿易データを使って、日本とある国、またはある商品に関する日本と世界の貿易に関する卒業研究をします。

より具体的に、ゼミで学ぶ内容には下記が含まれます。

- ・そもそも貿易が発生する理由、その際の貿易のパターン（何が輸出され何が輸入されるのか）、貿易が行われたときの経済的影響、貿易政策
- ・貿易統計の使い方（データの収集、整理、加工、グラフ化等を含む）
- ・貿易統計の分析

以上の学習・研究を通じて、貿易の理論と実際を学びたい学生を募集します。

私自身は産業立地に関する応用理論的な研究や、最近は働き方とグローバル化、サービス貿易、自動車貿易そして偽造品の問題などについて、経済学の視点から研究をしています。私の関心分野やこれまでの研究について、詳しくは下記に一覧がありますので参照してください。

<https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp?resId=S000333>

李 惠源（イ ヘウォン） ゼミナール

演習のテーマ

韓国の社会と文化

演習の内容

本ゼミナールでは、韓国の歴史・政治・経済・社会・文化や日本との交流などについて学びながら、日本にとって「重要な隣国」である韓国への理解を深めていくことを目標とします。本ゼミナールでは、以下のテーマを中心に取り上げる予定にしていますが、テーマは履修者との話し合いを通して変更となる可能性もあります。

- ・ 朝鮮半島の歴史
- ・ 日本と朝鮮半島の交流史
- ・ 韓国の伝統的な冠婚葬祭
- ・ 韓国の伝統的な芸術・建築・遊びなど
- ・ 朝鮮半島における地域別の食文化
- ・ 韓国における日本ブームの歴史
- ・ 韓流ブームの歴史
- ・ 現代韓国の経済発展
- ・ 激変する現代韓国の政治
- ・ ノーベル文学賞受賞作家ハン・ガンの作品探索
- ・ 在日コリアンの歴史と現状
- ・ 日本に進出した韓国企業に関する調査 など

各履修者には、担当したテーマについて関連文献を読み、視聴覚資料を収集した上でレポートを作成し、プレゼンテーションを行なってもらいます。また各学期 1 回、フィールドワークも実施します。

フィールドワーク:

春学期：東京新大久保のコリアンタウン

秋学期：東京にある韓国企業訪問

ゼミ期間：当該ゼミは B ゼミであり、2026 年度の一年間となります。

井川 ジェニファー ゼミナール

演習のテーマ

Finding Leadership in Literature

演習の内容

In this seminar, our case studies come from novels and plays: we examine the concept of Leadership through the experiences of characters in works of fiction. What characteristics make or break a Leader? Can we predict whether a person will be a successful leader or not based on those characteristics?

During the first year, we will read and discuss works of fiction to help us consider what the characteristics of a good leader might be, as well as why some leaders succeed and some fail. We will also read non-fiction texts for support. Students are expected to ***read extensively in English*** to prepare for class. During class, students are expected to ***participate actively and enthusiastically in English***. Students gradually assume responsibility for leading class discussion. Students are encouraged to consider questions that emerge from discussion as possible research topics. As students are expected to write short summary and response papers, there is also instruction in writing.

In the second year of the seminar, students will research and write a graduation thesis on a relevant topic of their choice. Students will continue to read outside of class. Classwork includes scaffolded instruction in thesis writing and the presentation of oral research reports. Students will be encouraged to provide and make use of peer feedback.

With a better understanding of the concept of Leadership, it is hoped that students will be better equipped to choose good mentors and become good leaders themselves.

生方 雅人 ゼミナール

演習のテーマ

企業財務・投資理論

演習の内容

ファイナンス（企業財務・投資理論）はビジネスパーソンにとって世界共通の専門知識の1つです。企業財務（企業金融、コーポレート・ファイナンス）では企業が企業価値の向上を目指し、ビジネスをおこなう上で必要な資金をどのように調達するか、資金をどのビジネスや M&A に投資するか、株主にどれくらい利益を還元するかといった意思決定について考えます。投資理論（インベストメント）では株式、債券、投資信託といった金融商品の特徴やリスク管理、投資戦略について考えます。

学生時代にもっと深く学んでおけばよかったことに関する最近の民間企業による意識調査では、トップの語学に続くのが金融となっています。理由は色々あるでしょうが、ファイナンスの知識や分析手法は、経済の不確実性が増している中で個人の資産管理や投資判断に欠かせない要素と考える人や、日々の生活で金融に関する判断や選択を行う場面が増えており、ローンやクレジットカード、投資、年金、保険など、さまざまな金融商品や制度に関する知識が求められていると感じる人、将来のキャリアに対して有利に働くと感じる人が多いからであると思われます。

3 年次はグループワークを中心に、例えば、財務諸表ベースの業界当てクイズや積立 NISA の制度を考慮したポートフォリオ・コンテスト、関心のある題材でグループ研究などをおこない、基本的なファイナンスに関連する考え方や知識を高めていきます。また、経済・経営データやアンケートデータ、その他の資料などから分析をおこなう Excel などを用いたグループワークもおこないます。4 年次には引き続きグループワークをおこないますが、卒業論文という目標に向けて逆算する形でゼミ活動をおこないます。

その他には、先輩ゼミ生と合同ゼミや夏のゼミ合宿等があります。なお、演習の無断欠席は全体のモチベーションを著しく低下させるので正当な理由のない欠席に対しては厳正に対処します。上記のような流れでゼミ生はビジネス・財務について好奇心をもって臨めるようになる基盤を作り、今後のキャリアを意識し、キャリアで使える考え方やツールを身につけていきます。ゼミ活動に対する意欲がある学生であれば、ファイナンスの前提知識があまり無くても歓迎します。ゼミ説明会や学生によるゼミナール紹介のページ等も参考にして下さい。

大野 弘明 ゼミナール

演習のテーマ

Financial Economics

演習の内容

【学習内容】

本演習では以下の二点を学びます。

- ・ファイナンスの標準的な内容を体系的に習得すること。
- ・コンピュータを用い、株価、利子率及び財務会計データなどの取り方、分析方法、データの解釈方法を習得すること。

【到達目標】

以上二点を習得することによって、『進路決定と卒業論文』を仕上げることを到達目標とします。

【ゼミでの2年間】

学生間の対話を重ねることを通じて得られるものは、上述の内容以上に大きな価値があると個人的に考えています。これまで懇親会、夏期・冬期ゼミ合宿、OBOG会などを実施してきました。企画から参加まで各学生に任せますが、ゼミの一員として積極的に参加し行動することを期待します。私もなるべく参加するようにします。

【OB・OG の進路】

卒業生は金融、不動産、建築、商社、アパレルなど多岐にわたって活躍していますが、銀行、保険会社、証券会社への就職比率が相対的に高いです。また、国内外問わず進学するという選択肢もあります。

【注意点】

本ゼミナールでは計算を避けて通ることが出来ません。現在出来ないことは全く問題としませんが、基礎から学習しますので徐々に慣れて下さい。ただし、高度な数学力を求めると言うよりは金融経済に関する直観的な思考と理解を高めることに重きを置くつもりです。

岡崎 哲二 ゼミナール

演習のテーマ

日本の経済発展に関する実証研究

演習の内容

3 年次のゼミでは、19 世紀末以降、現代までの日本の経済発展をマクロ的な視点から理解することを目指す。テキストとして、南亮進・牧野文夫『日本の経済発展』（第 3 版）（東洋経済新報社、）を使用する。テキストを毎回 1 章 ずつ、あらかじめ割り当てられた 学生がパワーポイントを使用して説明し、それ に基づいて全員で議論する。並行して、卒業論文の準備として各自が設定したテーマに関する個人研究を行う。個人研究については、ゼミで中間発表を行うとともに、年度末にゼミ論文として提出する。

4 年次のゼミでは同じ期間の日本の経済発展を、よりミクロ的に産業・企業に焦点を当てて理解する。3 年次と同様にテキストの輪読を行うとともに、各学生が卒業論文準備のための発表を行い、年度末に卒業論文を提出する。2025 年度の 4 年次のゼミではテキストとして伊丹敬之『日本の自動車産業』（NTT 出版）、和田一夫『ものづくりの寓話：フォードからトヨタまで』（名古屋大学出版会）を使用している。
必要に応じて 3 年生・4 年生の合同ゼミ、東京大学経済学部資料館見学、三菱史料館見学等を行う。

加藤 木綿美 ゼミナール

演習のテーマ

経営組織論・経営戦略論

演習の内容

本ゼミでは経営組織論・経営戦略論を学ぶ。

3年生では経営組織論・経営戦略論の標準的な内容を体系的に習得することを目指す。理論の理解を深めるため、理論を実際の企業活動に当てはめながら企業分析とプレゼンテーションを行う。また、経営に関するテーマについてのGD（グループディスカッション）、実際の中小企業が有する経営課題に対する提案活動などを行う。

4年生は卒業論文の執筆を中心に行う。卒論では理論的アプローチの簡易的な流れとして、フィールド研究からの理論化に挑戦する。すなわち、問いに対する仮説を立て、実際の現場でフィールドワークを行うことで仮説検証を行い、そこから何らかの理論を見出すというものである。経営に関して各自が関心のあるテーマを1つ決定し、資料文献調査を行った上で、インタビュー調査・アンケート調査のいずれかから研究方法を選び、まとめてもらう。テーマ例は以下の通りである。

- ・新業態ビジネスの組織動態：日本における Airbnb シェアリング・エコノミーホストの成功事例
- ・組織市民活動における動機付け要因：オリンピックボランティア参画の意思決定事例
- ・組織の経済学におけるモニタリング費用の国際比較：USED ファッションの事例
- ・組織における慣性と変革：バー業態変化の制度派組織論的解釈

ゼミではディスカッションやプレゼンテーションの機会が頻繁にあるため、自主的に考え発言・行動ができる学生、当該能力の向上を希望する学生を歓迎する。また、進路に対して真剣に考え努力している学生を歓迎する。

木川 大輔 ゼミナール

演習のテーマ

企業の経営戦略とビジネスモデルの研究

演習の内容

ゼミの基本的な軸は、実在する企業の経営戦略やビジネスモデルを分析し、当該企業が抱える課題を発見したうえで、その解決策を検討することです。

3年次には、実在する企業のビジネスモデルを「ビジネスモデルキャンバス」という手法を用いて分析します。例えば、皆さんがよく知っているメルカリやPayPayといったサービスのビジネスモデルはどのような点が優れているのか？といった点などについて、経営学の理論に照らし合わせながらグループで議論し、理解を深めます（分析対象は皆さんの希望を反映します）。これらのグループワークの過程で、実在する企業の投資家向け資料などを読むことに自然と慣れ、結果として就職活動時の企業分析に役立てることが期待されます。

その後、分析したビジネスモデルをもう少し掘り下げて、その企業が抱える課題は何か？どうしたらその企業の収益を高めることができるかといった点を議論します。例えば昨年度は、サンリオが抱える経営課題は何か？若者に食べログを使ってもらうためにはどうしたらいいのか？といった経営課題を学生自身が発見したうえで、3年生の集大成として、3、4人の実務家達を招き、学生自身が発見した問題に対する解決策の提案を実務家の前で発表（中間報告、最終発表の2回）しました。優秀発表グループは、学部全体のゼミ報告会で、大勢の企業の方々の前での発表も行いました。

4年次には、卒業論文の執筆が活動の中心となります。3年次に学んだ企業の経営戦略やビジネスモデルを研究テーマの中心とします。3年次で学んだような、実在する個別企業や競合同士の競争を観察し、既存理論ではうまく説明ができない現象を深く分析し、データやインタビュー等で集めた根拠に基づき仮説（命題）を導き出す単一事例研究の手法を中心に進めます。現時点ではとても難しいことに取り組むように感じるかもしれませんが、それほど心配する必要はありません。卒業論文を書き上げた時の喜びや成長の実感は何にも代え難いものになると思いますよ。

最後に、木川ゼミでは、ゼミでの活動を通じて、取り組み内容に対する知識、理解を深めることはもちろんのこと、社会に出た後に汎用的に求められる能力（例えば、文章作成能力やプレゼンテーション能力など、およびそれらを個人ではなくチームで準備することに取り組める力）を養うことをゼミのもう1つの狙いとしています。

工藤 健太 ゼミナール

演習のテーマ

データを使った経済・経営の分析

演習の内容

近年、ビジネスの場でもデータを用いた分析が重要視されています。本ゼミナールでは、統計学や計量経済学を中心としたデータ分析の知識を駆使し、卒業論文を執筆することを目指します。

(演習の進め方)

- ・3年次には、教科書を輪読し、プレゼンを行います。統計学・計量経済学の知識について整理し、ExcelやRなどのソフトウェアの使い方を学ぶ時間を設けます。
- ・一通りの学習が終わったのち、4年次においては卒論の研究テーマを決め、データの収集や必要な知識の習得に注力します。定期的に研究の経過報告を行う機会を設けます。

(卒論研究のテーマ)

データを用いた研究であれば、卒論研究のテーマ・内容は参加者の自由です。

(研究テーマの例)

- ・企業のESG投資の決定要因の分析、野球などのスポーツについての統計的分析、各国の経済成長の要因の解明、航空会社の財務状況とその決定要因 など

(受講にあたっての注意)

- ・報告者(報告グループ)は特別な事情を除き、欠席は認められません。
- ・本演習では、データ分析というテーマを設定している都合上、数学の知識やPCスキルが必要になることがあります。ただし、あくまでも数学やPCを勉強するゼミではなく、どのようにそれらを使うのかに重きを置きます。
- ・データ分析入門レベルの知識があれば、ゼミに参加する際に大いに役立つと思いますので、シラバスを確認してください。データ分析入門の学習内容の復習も、ゼミでの輪読と並行して行いますので、未履修の方も歓迎します。

マイヤーオーレ ヘンドリック ゼミナール

演習のテーマ

International Business, Marketing and Retailing, Human Resources

演習の内容

In this seminar, we will explore how companies structure and manage their international businesses. Why and how do companies enter foreign markets, how does this affect their organization, how do they organize the management of human resources? Participants will examine these aspects through case studies of various companies, whether they are based in Japan or overseas. We will work with written materials, but research might also include interviews with managers or even the observation of the stores of foreign retailers in Tokyo.

Activities in the seminar will include:

1. Developing research questions and designing a research plan.
2. Learning how to find good information sources.
3. Analyzing information by using available frameworks from business and academia.
4. Confidently presenting findings through presentations and reports.
5. Working together and discussing with others

In addition to developing your analytical and presentation skills, I aim to foster your ability to interact and collaborate with individuals of different nationalities. This will be achieved through opportunities to engage with business professionals and to participate in joint projects, both online and in person, with students from universities outside of Japan.

松園 保則 ゼミナール

演習のテーマ

Public Speaking

演習の内容

This seminar course focuses on public speaking of all kinds. Through two years of seminar activities, students will master crucial principles of public speaking in English and develop their own engaging speaking styles for public presentations. Additionally, this seminar aims to prepare students for their future careers by fostering genuine confidence and professionalism in public speaking.

During the third year, 2026, students will learn about the fundamental principles of public speaking using assigned textbooks. They will also analyze professional speakers as case studies, engaging in group discussions and public speaking exercises in the classroom. Furthermore, to prepare for writing their thesis in English in their final year of 2027, students will write multiple-draft essays supported by logical arguments and information from texts.

Moving into the fourth year, 2027, students will explore the theoretical aspects of public speaking in depth, including text organization, linguistic features, delivery techniques, and psychological aspects. They will learn to apply these aspects when analyzing the performances of public speakers and will select and examine a few speakers using these criteria to develop their own professional speaking styles. The insights and findings from their analyses will be incorporated into their graduation thesis.

Throughout the two-year seminar, students are expected to actively participate in group and class discussions conducted in English during each session.

山田 純平 ゼミナール

演習のテーマ

グローバル企業の分析と国際会計

演習の内容

本演習では、決算書を通じてグローバル企業の経営分析を行い、さらに会計基準の国際的な動向について学びます。その過程で、企業会計についての基礎事項について習得することになります。

グローバル企業の経営分析では、海外企業の決算書进行分析し、その分析をもとに、どのような経営戦略をとっているかについて検討します。決算書の分析だけではなく、将来を予測して、企業価値の算定まで行う予定です。まずは、企業分析や企業価値評価について説明した本を読んだ後、各自が海外企業を分析し、その結果を報告してもらいます。

国際会計の分野では、ルールが国際的に収斂する一方で、各国でそのルールがバラバラに適用される傾向にあります。そこで、企業会計のルール全般を学べる教科書を題材として、国際的なルールの動向を学んだうえで、各国でそのルールがどのように適用されているかについて検討することを目標とします。

その他に、例年は他大学との研究報告会で報告をしてもらっています。共同で報告する作業を行うとともに、大人数の前で報告し質疑応答ができることを目的としています。3年秋学期に留学に行く学生については、研究会での報告は免除します。またゼミの人数が少ない場合には、相談のうえ報告会には参加しないことにします。

最後に、これらの勉強の総仕上げとして、卒業論文を執筆することになります。1年間かけて論文を執筆することにより、論理的な思考力が鍛えられるので、卒業論文を執筆することを望みます。

ここまでは例年の演習の内容を書きましたが、参加者のニーズに合うように、演習のなかで相談したうえで、運営していきたいと考えています。